

田上 光大 先生を送る

コミュニティ政策学部教授

学部長 保田 正毅

我がコミュニティ政策学部は、現代社会の現状をただ分析・研究するだけでなく、コミュニティを切り口として新しい社会を築いていく政策の解明を、その使命としています。そのため、コミュニティ政策の実際に携わり、コミュニティの現場をふまえて教育・研究に当たる教員の存在が不可欠であります。田上 光大 先生はそうした任務を期待されて平成 12 年 4 月、本学に迎えられました。

愛知県職員として企画部生活課長、企画部長を、さらに公営企業管理者企業庁長を歴任されて来られた田上先生は、本学への着任以来、その政策担当者としての豊かな知見と経験を生かして、本学の発展に寄与して下さいました。講義では基幹科目の「コミュニティ政策」、専門科目の「自治体行政論」「コミュニティ政策方法論A」などをご担当いただきました。「コミュニティ政策」ではコミュニティ形成にかかわる行政サイド・住民サイド双方の機能分担と協働のあり方について、「コミュニティ政策方法論A」ではボランティアやNPOの活動・役割などについて、「自治体行政論」では地方分権の視点から自治体行政の諸問題について、いずれもご経験をふまえて具体的に掘り下げて下さいました。

校務においては就職委員・就職委員長・運営委員を歴任されました。とくに先生の幅広い人脈を生かした「公務員の会」の活動、就職委員長として、「自分は何ができるか」「何がしたいのか」と学生に問いかけた就職ガイダンスなどでは、田上先生の持ち味を存分に発揮していただきました。また実現はしませんでした。愛知学泉大学による自治体中堅職員研修プログラムづくりでは、労を惜しむことなく、丁寧な事前調査や事前調整をしていただきました。

田上先生は、わずか三年という短い在職期間にも拘わらず、発足間もない我がコミュニティ政策学部が抱える問題を的確に把握され、教授会や運営委員会の場で積極的に発言して下さいました。一つは、〈コミュニティ診断士〉に関するものです。本学が認定する専門資格〈コミュニティ診断士〉の社会的評価を高めるためには、「コミュニティ診断士はどういうことができるのか」を明らかにして、そのための専門的能力を身につけさせなければならない、と主張されました。今一つは、〈まちづくりプロジェクト〉に関してです。学部として取り組む「まちづくりへの新たな挑戦」プロジェクトに対して、先生は地域を基礎にしたコミュニティ政策研究と学部教育の展開を図るという視点から、具体的な構想を私たちに提起して下さいました。これら二つの問題提起は、田上先生が私たちに課せられた大きな宿題であります。

この度、田上先生は本学の専任から離れられることとなります。しかし嬉しいことに、しばらくは非常勤として引き続き学部教育にたずさわっていただけることになりました。先生の豊かな知見と経験をふまえて、従前に変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願いいたします。先生のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。